



はじめのいっぽ

令和7年度
10月号

令和7年9月30日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

きびしい暑さの夏から、待ちに待った「秋」がやって来ようとしています。

子ども達も保護者の皆様もよく頑張って来られました。

第17回運動会に向けて3.4.5歳児は練習に燃えています。テーマ「**力**～子どもを信じる力～」と致しました。強くたくましい力も素晴らしいですがあえて「信じる力」と致しました。

—子どもにリードさせる— (P222～)

何もせず日々そばにいて子どもにリードさせる。

これを子どもと一緒にいるときの習慣にしましょう

よく観察して手を貸すことを考えましょう

問題を解決しようとする子どもに手を貸すのであって

親が代わりに解決するものではありません。

マリア・モンテッソーは、何かに集中している子どもの邪魔をしてはいけません。

没頭し、集中し、想像力を駆使している活動を尊重してあげようと言っています。

つつい口数多く心配性な部分が出てしまう親心を理解しつつ、「信じる力」をつけていきたいと思います。



～アドラーより～

子どもの課題を共同の課題にする(1)

子どもの課題は、本来は子どもが自分の力で解決しなければならないものですし、親が口を出したり手伝ったりしてはいけないものです。しかし、子どもの課題を親子の＜共同の課題＞にして、親が手伝うことができる場合が3つあります。この章では、そのうち2つを学んで、もうひとつの場合は第5章で学びます。

1. 子どもから親に頼んできたとき

子どもの課題は、原則としては子ども自身に解決してもらうことが望ましいのです。もし自力でうまく解決できれば、子どもは「私は能力がある」と感じるでしょう。かわりに親が解決してしまえば、子どもは「私は能力がない」と感じてしまうかもしれません。しかし、子どもが自分の力だけで課題を解決できない場合もあります。そのような場合、もし子どもがはっきりと言葉で「手伝ってよ」と頼んできれば、親は手伝ってあげることができます。たとえば、「学校の宿題がわからない」というのは、その結末が子どもの身にだけふりかかりますから、子どもの課題です。しかし、子どもが「宿題がわからない。手伝って」と相談してきたら、子どもの話をよく聴いた上で、お手伝いしてあげることができます。

2. 言葉ではっきり頼まれてから手伝う

子どもは自分の課題を解決できないのだが、言葉で頼まないで、ただ手伝ってほしいようなそぶりをするだけだったりするときには、言葉ではっきりと頼んでくれるまで、手伝わない方がいいと思います。

場合によっては、「なにかお手伝いできることはありますか？」と尋ねてみるのもいいでしょう。そうして、子どもが「手伝って」と言えば、手伝ってあげますし、なにも言わないか、あるいは「手伝わなくてもいい」と言えば、子どもにまかせます。

3. 引き受けることも断わることもできる

子どもが頼んできたからといって、絶対に引き受けなければならないものではありません。場合によっては、断わることもできます。また、部分的には引き受けて、部分的には断わるというようなこともできます。引き受けるとしても、どの程度手伝うのか、どういうことは手伝わないのかを、事前によく話し合っておきます。

